

認知症と共によりよく暮らしていくために

圆 高齢福祉課 長寿支援係 (内線 2132)

認知症とは?

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまうなどして、脳の司令塔の働きに不具合が生じ、

様々な障害が起こり、生活する上での 支障がおよそ6カ月 以上継続している状態を指します。

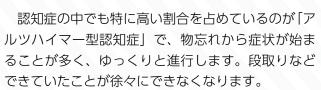




認知症の種類は?

認知症の代表的なものは、主に次の4つ。

- ○アルツハイマー型認知症
- ○レビー小体型認知症
- ○脳血管性認知症
- ○前頭側頭型認知症



認知症になると、どうなるの?

認知機能(大脳の働き)の低下に伴い、自立した 生活が困難になっていきますが、喜びや悲しみの感 情など、ずっと残る能力もあります。

写 早期からの支援で認知症の人が不安・混乱・ うつ状態・拒絶的になることを少なくすることができます。進行を遅らせたり、本人や周 りの人が今後の見通しを立てて備えたりできます。

ご相談は、高齢福祉課 または 小諸市地域包括支援センターへ

地域包括支援センター ☎ 26-2250

小諸市地域包括支援センターは、市が設置する、 高齢者やそのご家族、支援者のための介護・医療・ 生活等の総合相談窓口です。

いつ、どこに相談したらいい?

相談のタイミングは…

- ☞ 「いつもと違う」「あれ?」と思ったとき
- **彦 暮らしのなかで「支障」が出てきたとき**

物忘れや認知症を疑う言動があっても、ご本人が 毎日の生活で大きく困ることなく穏やかに生活でき ていて、ご家族や周りの方がご本人の言動で悩んだ りすることがなければ専門家への相談を急ぐ必要は まだないでしょう。

一方で、一日中探し物をしていたり、お金や薬などの管理ができなくなったり、頻繁に約束を忘れてしまったり、人が変わったように怒りっぽくなったり、集金やゴミ出しなど地域生活でのルールを守れなかったりとご本人やご家族、周りの方々が困るような事が起こった時は、かかりつけ医や専門家に相談するタイミングです。

症状に急激な変化や、同時にふらつきや転倒、排泄の失敗などの身体症状が出始めた時には、すぐにかかりつけ医を受診しましょう。かかりつけ医や専門医へは、「いつ頃から、どんなことが、今までと比べてどう違うか」具体的に相談しましょう。

「認知症ケアパス」、ご活用ください!

令和元年度に作成した「認知症と共に歩む道しるべ 〜小諸市認知症ケアパス第2版〜」には、認知症の正 しい理解についてや、認知症の進行状況に合わせ、いつ、 どこで、どのような地域資源・医療・介護サービスを 受ければよいかが、標準的に示されています。

高齢福祉課や地域包括支援センター、市内介護保険

事業所や医療機関等に配置し、ご本人ご家族と一緒に見通しを立てる際に活用しています。

市 HP からもご覧いた だけます。ぜひご活用く ださい。



